

プロフィール

1964年 10月1日生まれ

新入幼稚園、新入小学校、直方第三中学校

1983年 鞍手高校 卒業 (高35回)

1989年 関西大学 経済学部 卒業

あしかび工業所、(株)内藤鍛造所を経て、

1990年 (有)岡松商会入社

活動履歴

1990～2004年

(社)直方青年会議所に所属

在籍中は副理事長・役員を複数年歴任

青年会議所福岡ブロック協議会

人間力開発実践会議議長、

会員拡大支援委員会委員長

直方・鞍手・小竹合併協議会に3号議員として参加

2005～2008年 新入小学校PTA会長

2008～2013年 植木中学校PTA会長・副会長

2013～2016年 大和青藍PTA会長

現在 直方法人会 監査役

植木中学校 学校評議委員

議員役職 産業建設委員 農業委員 (2011～2015)

教育民生委員会 副委員長 (2015～現在)

趣味 テニス

中学、高校 軟式テニス部(三中では二年生の時、香月先生と男子テニス部を創りました。)

関西大学テニス友の会で硬式テニス

現在、西部運動公園で週一回、硬式テニスを仲間と楽しんでいます。

日々の活動のひとコマ



毎年、年末に開催される「ハートトゥ ハート第九コンサート」に実行委員として参加しています。着物で第九の時は、新聞各社、テレビ局3社から報道していただき直方をアピール出来ました。

地域猫運動に取り組んでいます。

動物は、かわいいですね。

つい、食べ物をあげてしまいがちですが、増え過ぎると困ります。なので、地域猫活動を推奨します。

右の写真の猫は、以前保護した後、SNSで飼い主を募集し、今は北九州市で幸せに暮らしています。



北朝鮮による拉致問題を多くの方々に知ってもらうため映画の上映活動に参加しています。

『ひと』が集うまちづくり

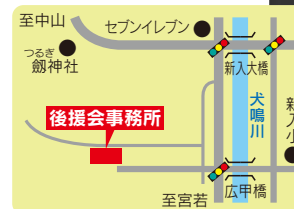


おかまつ誠二

せいじ

おかまつ誠二 後援会事務所

〒822-0033 直方市上新入3358-2
TEL 0949-22-3670 FAX 0949-22-3671
E-mail: info@okamatsu.info
Homepage <http://www.okamatsu.info/>



ホームページ

基本方針

「人口が減少する中、直方市はどう生き残っていくのか？」

直方市の問題と言うより、日本の問題として少子高齢化が進んでいます。その対策として、平成28年より「まち・ひと・しごと総合戦略」を策定し、取り組んでいます。残念ながら思うほどの効果は表れていません。

現役世代の定住人口を増加させるためには、

1. 子育て支援・教育環境を充実させること
2. 移住先として選ばれやすい環境を整えること

が最重要課題であると考え、これまで以上に重点を置いて取り組みたいと考えています。

① 子育て支援・教育環境の充実

現在「直方市こども子育て支援事業計画」を策定し、子育て環境の整備を進めています。保育園、幼稚園、学童クラブを利用する家庭は多くが共働きであり、少数であるが待機児童も出ています。施設を整備することも大切ですが、それには時間もお金もかかります。

現在小学校では、図書館等を活用して、午後5時までの学習支援を行っています。この活動は国からの補助金によるものであり、継続性に問題があります。

国の支援が無くなっても事業が継続できるように、教育委員会、こども育成課、地域が連携し、安心できる子どもの居場所作り、仕組作りを考えたいと思います。

平成24年より文部科学省より武道を中学校体育の必修となりました。礼に始まり礼に終わる、自己鍛錬を重んじる武道は、青少年の健全育成にとって最適であると考えたからです。しかしながら直方市の中学校には武道場がありません。

近年毎年のように起こる自然災害、平成30年7月の大雨では直方市でも避難指示が出されましたが、対象地域の全員が非難できる場所がなく、キャパシティも不足していること、また畳敷きの場所も少なく高齢の方には過酷な環境であることが判明しました。

子どもたちの健全育成のために、また緊急時の安全を確保するためにも、武道場と備蓄倉庫を各中学校に建設することを提案します。

② 移住先として選ばれる環境整備

福岡県警発表の市町村別認知件数によると、直方市の凶悪犯罪件数は周辺地域と比べても非常に少なく、安全なまちと言えます。
※過去5年間(H25~H29)の凶悪犯認知件数:直方市12件、飯塚市48件、田川市18件

「自然環境と教育環境が整った場所で子育てをしたい・・・」
「リタイア後は田舎町でスローライフを楽しみたい・・・」
都会から田舎への移住者が増えています。また、移住を促進するために、多くの自治体が移住を推進するための策を講じはじめました。

福岡へも北九州へも1時間程度、適度な自然もありながら生活に不自由することもなく、ちょうどよい田舎「のおがた」。
空き家の活用、小世帯市営住宅等、移住者を支援する制度を整備し、子育てのために、ベッタタウンとして、終の棲家としても最適な場所「のおがた」を創造していきたいと考えています。

移住先としても最適な環境であることを認知してもらうためには、交流人口を増やすことも同時に取り組まなければなりません。観光資源には乏しいわが市ですが、イベントや市民活動を活発にする(支援すること)や、都市部へ赴いての活動、インターネットを通じての広報活動など、この地に足を運んでいただくための活動に取り組みたいと考えています。

「グローバリズム」「多様性社会」等々世界の変化につれて地方自治のあり方にも対応が求められていますが、行きすぎた「ポリティカルコレクトネス」は日本の安全性、文化を破壊しかねません。

これらの論調に惑わされることなくしっかりと自由と安心安全な社会を守っていく。

その最前線が地方議会でもあるのです。



建国記念日祝賀会にて元防衛副大臣
おにき誠衆議院議員と。